

改組新

## 第2回 日展 金沢展



大樋年朗《黒陶銀彩「申」天空走》

- |                     |              |
|---------------------|--------------|
| ■ 前田藤四郎と甲冑・陣羽織 [前期] | 前田育徳会尊經閣文庫分館 |
| ■ 岸派の絵画             | 第2展示室        |
| ■ 挿画の鬼才 山崎百々雄展      | 第6展示室        |
| ■ 琳派                | 第2展示室        |
| ■ 生活の中の工芸           | 第5展示室        |

● 6月の企画展示室

● 6月の行事予定

● キッズプログラム 年間予定

● アラカルト ただいま展示中

# 改組新 第2回 日展 金沢展

主催／北國新聞社、公益社団法人日展、日展石川会

後援／石川県、石川県教育委員会、金沢市、金沢市教育委員会、一般財団法人石川県芸術文化協会、一般財団法人石川県美術文化協会、NHK金沢放送局、北陸放送、テレビ金沢、エフエム石川、ラジオかなざわ、ラジオこまつ、ラジオななお、金沢ケーブルテレビネット

5月21日(土)～6月12日(日) 会期中無休

日展は長い伝統を持ち、所属作家層の厚さと優れた作品で知られ、日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書の各分野を網羅し、わが国最大・最高水準の総合美術展として親しまれています。

日展は明治四〇年の文部省第一回美術展として発足以来、その時々の改革を重ねながら、常にわが国の美術界の中核として日本美術文化に貢献してきました。今回は、平成二十六年の組織改革から二回目の展覧会となります。

東京の本展出品作の中から、文化勲章受章者、文化功労者、日本芸術院会員、日展理事、会員などの秀作と、特選(石川県関係では日本画で佐藤俊介、洋画では佐々波啓子、工芸美術では大西重広、高名秀人光などの受賞作品を基本作品とし、これに石川県内在住、出身作家の作品を合わせ、三三五点を展示します。

### ◆主な出品作家(五十音順・敬称略)

#### 〔日本画〕

鈴木竹柏、土屋禮一、中路融人、中村徹、福田千恵、古澤洋子、山崎隆夫

#### 〔洋画〕

児島新太郎、佐藤哲、寺坂公雄、中山忠彦、西田伸一、塗師祥一郎、樋口洋、藤森兼明、村田省蔵

#### 〔彫刻〕

兩宮敬子、石田陽介、川崎普照、神戸峰男、中村晋也、能島征二、橋本堅太郎、蛭田二郎、山本真輔

#### 〔工芸美術〕

伊藤裕司、今井政之、大樋年雄、大樋年朗、奥田小由女、小西啓介、武腰敏昭、中井貞次、百貫俊夫、千田浩、三谷吾一、森野泰明、山岸大成

#### 〔書〕

井茂圭洞、日比野光鳳、星弘道

### ◆作品解説日程

日時	10時30分～12時	14時～15時30分
5月23日(月)	〔工芸美術〕山岸大成	〔日本画〕中町力 北川由希恵
25日(水)	〔洋画〕曾我章	〔彫刻〕村井良樹
27日(金)	〔工芸美術〕木谷陽子	〔書〕堀井聖水
28日(土)	〔日本画〕宮下和司 平木孝志	〔洋画〕早崎和代
30日(月)	〔彫刻〕谷村俊英	〔工芸美術〕千田啓浩 小西啓介
6月1日(水)	〔書〕三藤観映	〔日本画〕佐藤俊介 仁志出龍司
3日(金)	〔洋画〕佐々波啓子	〔彫刻〕山瀬晋吾
4日(土)	〔工芸美術〕高名秀人光	〔書〕高廣幸悠
6日(月)	〔日本画〕戸田博子 古澤洋子	〔洋画〕児島新太郎
8日(水)	〔彫刻〕江藤望	〔工芸美術〕武腰一憲
10日(金)	〔日本画〕柳橋広司 瀧川真人	〔洋画〕本山二郎
11日(土)	〔彫刻〕石田陽介	〔工芸美術〕百貫俊夫

### ◆観覧料

	当日	前売り	団体
一般	一、〇〇〇円	九〇〇円	八〇〇円
中学生	七〇〇円	六〇〇円	五〇〇円
小学生	四〇〇円	三〇〇円	二〇〇円

※当館友の会会員は、会員証の提示により団体料金に割引されます。

### 〔展覧会事務局〕

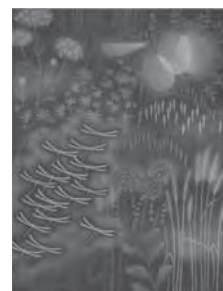
北國新聞社事業局内 改組新第二回日展金沢展事務局  
住所：〒920-0185 金沢市南町二番一  
電話：〇七六-二六〇-三五八一



武腰敏昭《無鉛油「空の王者」》



村田省蔵《新涼》



三谷吾一《黄昏》

## 岸派の絵画

5月19日(木)～6月12日(日) 会期中無休

岸派とは、岸駒<sup>がく</sup>を祖として、江戸後期から明治期にかけて活動した日本画の流派です。各流派を折衷した独特な写生画風で知られ、特に虎をモチーフとした作品は、この流派の定番として数多く描かれています。今回は、当館に収蔵されている岸駒の虎を描いた大作を一堂に展示し、改めて岸派の虎への並々ならぬこだわりをスポットを当てます。

岸駒の出生については不明な点が多く、生年を一七四九年と一七五六年とする説があり、出生地も石川県金沢説と富山県東岩瀬説があります。貧しい生い立ちだったと考えられ、加賀藩の史料によれば十二歳の頃金沢の染物屋に丁稚奉公し、二十五歳で京へ上ったようです。この時期、円山応挙

から指導を受けた可能性が指摘されるなど、応挙の画風から強い影響を受けています。そして一七八四年に有栖川宮家御学問所の障壁画を描き、有栖川宮の近習<sup>きんじゆ</sup>となり雅楽助<sup>うたのすけ</sup>の名を賜ったことにより、一流の画家としての地位を確立します。

一七九九年に長崎<sup>つうじ</sup>の通詞を通して、清人から実物の虎の頭骨を入手してそれを徹底的に写生し、また同年ミイラ状の虎の足四本も入手して解剖学的なレベルまで虎の研究を深めました。こうした虎への深い思い入れは広く知られ、岸駒の立身出世とあいまって「岸駒の虎」は、成功の吉祥図として特別の意味を持つようになったようです。また一八〇九年には加賀藩主に招かれ、金沢城に障壁画を描き、以後も九〇歳近くまで京都や金沢で精力的に活動しました。



県文 岸駒《虎図》(左隻)

名物前田藤四郎と  
甲冑・陣羽織 [前期]

5月19日(木)～6月12日(日) 会期中無休

今回の特集では、皆様の熱いご要望にお応えして重文《短刀 銘吉光(名物前田藤四郎)》を旧館以来、実に五十三年ぶりに展示します。鎌倉時代十三世紀、山城粟田口派の刀工・粟田口吉光は藤四郎と通称されていました。吉光は短刀に傑出した作刀が多く、国宝や重文にも指定されています。そこで「短刀 銘吉光」との名称のみでは特定が難しいため、前田家に伝来した藤四郎による名物刀剣として、今日も「名物前田藤四郎」の名で広く親しまれています。名物刀剣とは、形の特徴や来歴、所有者などから名付けられた、主に平安時代から南北朝時代に作られた名刀を指します。名物刀剣の所有は、武家の格付けを端的に示すことから、織田信長や豊臣秀吉ら戦国大名は、熱心に名物刀剣を収集

しました。そして名物刀剣の贈答は、大名間の深い絆を証するものとなりました。この「前田藤四郎」は、加賀藩祖・前田利家の次男・前田利政から嫡子の前田直之に伝わり、前田直之から加賀藩三代藩主・前田利常に献上され、以後前田家に代々伝えられました。

本特集では、二代から十四代までの加賀藩歴代藩主が所用した甲冑・陣羽織を約二十点あわせて展示します。甲冑・陣羽織は大名の威厳や美意識を示すものとして、戦国時代から様々な意匠や素材が用いられました。今回は五代藩主・前田綱紀が所用したもののの中から、白鷺の羽根を使用した陣羽織など、これまで公開されることがなかったものを選んで

重文《短刀 銘吉光(名物前田藤四郎)》

# 挿画の鬼才 山崎百々雄展

6月16日(木)～7月18日(月・祝) 会期中無休

## 学芸員の眼

昨今、筆ネイティブという言葉を目にします。美術史家山下裕二の造語で、物心ついた時から鉛筆ではなく筆を持つていた人を指すそうです。上村松園の草稿など、描線の上に和紙を貼り、墨で描き直してあるのがわかります。そこには筆だけで描き進めた当時の苦勞と、絵師としての矜持がうかがえます。どこへいくにも矢立を持参したという松園らの年代が、最後の筆ネイティブなのかもしれません。

さて山崎百々雄も、新聞小説の挿絵という万単位の人目に触れる作品を、来る日も来る日も筆で描き続けた画家です。その運筆は、ネイティブの域に優に到達しているものです。願わくはひとりでも多くの方が、その目で実物を鑑賞されることを。

日本には古来、『源氏物語絵巻』などに代表される「文学と絵画が融合した文化」が根付いています。そのような土壌からは、多くの名作が生み出されました。詳細については次号に稿を譲りますが、明治以降、次々と発刊された新聞に挿絵入りの小説が連載されると、大衆文学は多くの人々の支持を得ました。特に昭和という時代は、新聞小説から多くのスター作家を生み、数々の名作を世に出したのは周知の通りです。司馬遼太郎や池波正太郎、山田風太郎など、多くの方が愛読したのではないのでしょうか。

彼らスター作家から圧倒的な支持を得て、小説家と二人三脚で数々の名作を生み出した山崎百々雄という挿絵画家がいます。生涯に二五〇〇点を超える挿絵を描きましたが、主だった作品のタイトルを挙げると司馬遼太郎「風神の門」「梟の城」、池波正太郎「さむらい劇場」、柴田錬三郎「決闘者 宮本武蔵」「水滸伝」、吉川英治「全集」その他山田風太郎、大岡昇平等の作家も多数あり、タイトルを開

くだけでも昭和を生きた人なら唸ってしまうのではないのでしょうか。小説家たちによって紡ぎ出された物語を背景に、一辺わずか20センチメートルほどの画仙紙に描きだされた文学世界。豊かな発想とたしかに画技があいまって、登場人物たちが奔放に闊歩しはじめるのです。

山崎百々雄は外郷ともいい、大正二年金沢に生まれました。金沢時代の詳しいことはわかっていませんが、石川県立工業学校(現石川県立工業高等学校)を経て上京したようです。戦前、玉村北斗率いる新日本画運動の「ほくと社」に参加。また、戦後は東宝演劇部美術担当時代に東宝争議に参加し、全日本職場美術協議会などの組織にも積極的に参加しています。生業としての挿絵の他、日本画やプロレタリアートな油彩も制作し、残念ながら昭和四十六年に五十七歳の若さでこの世を去りました。本展では挿絵を中心に、日本画や油彩画もご覧いただき、昭和の鬼才山崎百々雄の画業にせまります。



《蓮池童女図》1944年  
山崎百々雄



柴田錬三郎「英雄ここにあり」  
山崎百々雄 挿絵



池波正太郎「さむらい劇場」  
山崎百々雄 挿絵

## 第5展示室

# 生活の中の工芸

6月16日(木)～7月18日(月・祝) 会期中無休

工芸とは、いったいどんなものでしょう。その定義はときにより、ひとによって曖昧ですが、ここは一応「人の手によって作られ」、「道具としての用をきちんと果たすもの」と捉えてみたいと思います。石川県立美術館では工芸品を、陶磁、漆、金工、染織、刀剣や甲冑、木竹・人形・その他の工芸、ガラスと分類しています。これは主に技法による分類ですが、目的・大きさ・時代など、さらに細かく分けていくことも可能です。しかし実際の生活にこれらを用いようとするとき、工芸品どうしは互いに関わりあい、技法や時代といった分類を簡単に超えてゆきます。個人の好みや目的によってあらゆる組み合わせをつくり出すことが、まさに「生活の中の工芸」なのです。そこで今回は、従来のように

技法で分類するのではなく、「かざる」「しきる」「おさめる」など、生活の中で工芸が果たす役割に注目して、作品を展示します。たとえば三谷吾一《鳥香合》と高橋介州《鴛鴦香炉》は、「かおる」ものを楽しむために制作されました。いずれも鳥を題材にしており、制作年代や技法を超えて組み合わせを楽しむことができます。

さて、氷見晃堂《片身替色紙箱》は何かを「しるす」ときに用いられますが、皆さんならこれとどんな作品を組み合わせますか？学芸員が選んだお相手は、ぜひ展示室でご覧ください。

※先月号で福田芳朗氏作品を「新収蔵」としましたが、「寄託」の誤りでした。訂正してお詫びいたします。



氷見晃堂《片身替色紙箱》

## 第2展示室

# 琳派

6月16日(木)～7月18日(月・祝) 会期中無休

当館は琳派の優品を多数収蔵している美術館として、毎年展示時期の問い合わせを多くいただいております。

二〇一三年に開催した「俵屋宗達と琳派」展では、琳派の親しみやすさと同時に、その深さも味わっていただきたいとの趣旨で、装飾的な表現の背後にある古典文学や、仏教、儒教思想の深意にスポットを当てました。そこで今回も、能楽や茶の湯に深い嗜みを持ち、また最晩年には禅にも傾倒した俵屋宗達の泉文《榎檜図》をはじめ、宗達の工房を継承した俵屋宗雪の泉文《群鶴図》、さらに宗雪を継いだ喜多川相説の泉文《秋草図》など、尾形光琳にいたる琳派様式の継承者による重要な作品を中心に展示します。宗達、宗雪、相説が活動した時代には、加賀藩三代藩主・前田利常が京都の後水尾

天皇が推進した寛永文化に深く関与し、また四代藩主・前田光高と五代藩主・前田綱紀が儒教思想と博物学的な関心を融合した、新たな文化活動を打ち出しています。それゆえに、京都から金沢を本拠として活動した宗雪や相説の作風には、加賀藩主・前田家が推進した文化政策が大きな影響を与えていると考えることができます。

このように、宗達から光琳にいたる過程における琳派への加賀文化の影響も、当館の展示では強調したい視点です。また今回は、琳派の造形運動をリードした本阿弥光悦が、宗達の工房と合作した泉文《光悦色紙貼交秋草図》と、尾形光琳がデザインした泉文《時絵螺鈿白楽天図硯箱》、光琳の弟・尾形乾山の《色絵雲錦手杯台》をあわせて展示し、琳派の豊かな表現世界の一端を紹介します。



泉文 俵屋宗達《榎檜図》

## 第7～9展示室

### 第27回

## 石川県水墨画協会公募展

6月23日(木)～27日(月) 会期中無休

石川県水墨画協会は、平成元年度発足、同二年に第一回公募展を開催し今日に至っております。公募展は石川県内の水墨画会諸会派及び一般個人を統合する当協会が行う展示会です。これは、過去の公募展の実績に照らし承認された会員の研鑽の場であると同時に、広く県内より一般公募し、厳正な審査の上入選作を展示し、水墨画の普及発展に寄与することとしております。従って各会派主宰の作品を始め、会員並びに一般公募の意欲的な表現による、楽しい協会展ならではの作品をご覧いただけると思います。

多くの方々のご来場をお待ちしております。

◇入場無料

◇連絡先／金沢市泉二丁目三一―一四

事務局長 能村静代

電話：〇七六一―二四二―三〇六三

## 第7展示室

### 第7回

## 石川県日本画会展

6月16日(木)～20日(月) 会期中無休

「日本画を志すものが、これまでの既存的概念や会派にとらわれることなく、自由で新しい発想によりそれぞれの日本画制作をすることを目的とし、会員相互の協力によってその研究・模索と石川県内での発表の機会を設け、自己の研鑽に努め、石川県の美術文化の発展に寄与する。」とし、日本画の会をスタートして今年で七年目になりました。

若手からベテランまで年齢層は幅広く、モチーフも風景や静物、人物・動物や植物、具象や抽象など多岐にわたり、その視点や表現方法は個性豊かです。ぜひ、この機会に石川県内の日本画家の意欲作をご覧ください。

◇入場無料

◇連絡先／輪島市鶴入町二―三七

石川県日本画会事務局長 宮下和司

## 6月の企画展示室

古くより世界中の人々のあこがれの地・シルクロードとは、太古以来アジア・ヨーロッパ・北アフリカを結んだ東西交易路の雅称です。十九世紀後半に中国各地を踏査したドイツ人地理学者リヒト・ホーフエンが名著の中で初めて用いたもので、仏教伝来の道でもありました。日中文化交流展を始めて四半世紀になる当会は、今回甘肅省定西市の書家との交流により、シルクロードにまつわる文言をテーマにした書道篆刻作品約百点を展示します。

◇主催／中国人民対外友好協会、甘肅省人民対外友好協会、定西市人民政府、北枝学会

◇共催／石川県日中友好協会、北國新聞社

◇後援／北陸大学孔子学院、テレビ金沢、エフエム石川、ラジオかなざわ

◇連絡先／北室南苑

電話：〇七六一―五五一―二六七

二紀会は「類型化を排する。具象・非具象を論じない。創造的な個性の発現を尊重する。情実を排し新人を抜擢し、積極的に世に送る」の主張を掲げて昭和二十二年以来活動を続けています。

春の北陸二紀展は北陸支部会員が、第七十回二紀展に向けて制作した作品を展示いたします。

世評を問い、あわせて立見榮男二紀会常務理事をはじめ委員の批評と指導を受けて作品の質の向上を図ります。この機会に是非ご高覧賜りますようご案内申し上げます。

◇入場無料

◇後援／北國新聞社、テレビ金沢、北陸放送

◇連絡先／金沢市泉野出町二―一六―九六反田英一

電話：〇七六一―二四三―〇八八二

## 第7展示室

### 2016

## 北陸二紀展(研究会展)

6月30日(木)～7月4日(月) 会期中無休

## 第8・9展示室

## 日中シルクロードの書展

6月17日(金)～20日(月) 会期中無休

# 第8・9展示室 第38回 伝統加賀友禅工芸展

6月30日(木)～7月5日(火) 会期中無休

## 六月の行事予定

25日(土)	日本工芸の源流 — 正倉院宝物① —	西田 孝司
18日(土)	俵屋宗達と臨濟禅 臨濟禅師一一五〇年に寄せて	村瀬 博春
11日(土)	工芸作家と古典研究(染織)	寺川 和子
4日(土)	絵画のなかの絵 画 画 館蔵品を中心に②	北澤 寛
<b>■土曜講座</b> 午後1時30分～ 美術館講義室 聴講無料		
19日(日)	甦る日本美 刀剣研磨 本阿彌日洲 鉄に魂を打ち込む 日本刀 月山貞一	(26分) (26分)
5日(日)	日本の美— 滲みの感覚 炎と土と色 文化勲章受章者 浅感五十吉	(25分) (20分)
<b>■ビデオ上映会</b> 午後1時30分～ 美術館ホール 入場無料		

加賀友禅技術保存会は現在、一〇名の友禅作家が会員に認定されており、加賀友禅の正統な技術保存と後継者育成のため、石川県の無形文化財の指定を受けています。その主旨を推進するため、毎年開催しているのがこの展覧会です。

第三十二回展より公募制を採用したことで、広く一般の方も出品できるようになりました。加賀友禅における新しい感性と創造的作品の数々をご覧ください。

※毎日13時30分より作品解説があります。

◇入場料／四〇〇円(三〇〇円) 高校生以下無料

※( )内は二十名以上の団体料金

◇主催／加賀友禅技術保存会

◇連絡先／金沢市小将町八―八

加賀友禅会館内 伝統加賀友禅工芸展事務局

電話：〇七六―二二四―五五一―

## キッズ☆プログラム年間計画

小学生とその家族を対象とした、鑑賞講座のご案内です。(定員はありませぬ)

【第一回】五月八日(日) 特集展示「新収蔵品展」

※終了いたしました。

「版画ってなあに？」

学校でも制作する機会のある紙版画や木版画。当館コレクションにたくさんあった版画作品を鑑賞します。いろいろな種類の紹介や簡単な制作体験も行いながら、版画について学びます。

【第二回】①七月三十一日(日) ②八月六日(土) 18時30分～19時30分

特集展示「夏休み親子で楽しむ美術館」アートdeものがたり

「アートから、ものがたりをつくってみよう」

(ものがたり)を題材に取り上げた作品を鑑賞します。文学作品や歴史上の事件だけでなく、私たち一人一人の身に起きる様々な出来事、自然のドラマを表した作品から、ものがたりを作ってみよう。

【第三回】平成二十九年一月十五日(日) 企画展示「絵画に見る江戸のくらし」

「江戸のくらしのミニミニ新聞をつくらう」

当館コレクションの浮世絵版画が、久しぶりにまともな展示されます。展示作品から江戸のくらしやその様子など見つけたこと、わかったことをミニミニ新聞にまとめてみよう。

【第四回】平成二十九年三月五日(日) 特集展示「九谷焼の美」

「九谷焼ものがたり」

石川県を代表する工芸品の「九谷焼」。九谷焼はどこで生まれたの？どんな焼き物？九谷焼の歴史をまとめた巻物をつくるなどしながら、九谷焼について詳しく学びます。

◇時間・開催場所

・講座は日曜日の13時30分開始。活動時間は一時間半程度。

※八月六日(土)のみ、時間が変則的です。

・集合は二階ロビー(第三回のみ講義室)。その後各展示室で鑑賞。

◇参加費

参加費は不要です。コレクション展示室の観覧料は子ども一名に対して保護者二名まで無料。企画展の場合は、子ども一名に対して保護者一名は無料。二人目からは団体料金。

兎福寿草図 絹本着色 一幅

縦35.0cm×横97.4cm 天明2年(1782)

岸駒 がんく

寛延2年～天保9年(1749～1838)



兎は旺盛な繁殖力を持つ上に、中国では、満ち欠けを繰り返す月に住み、不老長寿の仙薬についていると信じられていたことから、子孫繁栄や不老長寿、復活や再生を象徴するものとして、様々な形で意匠化されてきました。また福寿草は、旧暦の正月から黄金色の花を咲かせることから、新年を祝う花として、さらに幸福と長寿を象徴する花として画題に取り上げられてきました。

兎と福寿草を取り合わせた本作は、新春の吉祥図として描かれたものです。横長の構図のほぼ中央から左に、身を寄せる三羽の兎が描かれています。ここは兎が隠れるお気に入りの場所なのでしょう。一番右側の兎は前方に広がる平野を眺め、中央の兎は上方を警戒しているようです。一方一番奥の兎は見張りを前の二羽に任せて福寿草に前足を伸ばしています。兎の毛筋は丹念に描かれ、筆者の博物学的関心をうかがわせます。

本作は岸駒が岸矩と名のついていた天明二年(一七八二)十一月に、明時代十五世紀の宮廷画家だった呂紀の筆法に倣って描いた旨が署名に記されています。確かに画面左奥から右手前に展開してゆく構図の取り方は、呂紀周辺の明代絵画を丹念に研究した成果といえることができます。こうした京都での研鑽が実を結び、このあと岸駒は有栖川宮家に認められて社会的な地位を確立していきます。

次回の展覧会

会期:  
7月22日(金)～8月28日(日)

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室		ご利用案内
財団設立90周年 前田利為の業績と コレクション		久隅守景		
第3・4展示室	第5展示室	第6展示室	企画展示室	コレクション展観覧料 一般 360円(290円) 大学生 290円(230円) 高校生以下 無料 ※( )内は団体料金 毎月第1月曜日はコレクション 展示室無料の日(6月は6日)
夏休み優品選	文様がいっぱい	親子で楽しむ美術館 アートdeものがたり	ビアズリーと日本 会期:7月23日(土)～ 8月28日(日)	
				今月の開館時間 午前9:30～午後6:00 カフェ営業時間 午前10:00～午後7:00 年中無休
				6月の休館日は 13日(月)～15日(水)

### ガン保険

チューリッヒ生命「終身ガン治療保険プレミアム」

通院治療が増加している時代の、  
画期的なガン保険

既にガン保険にご加入されている方

- 主契約:放射線治療給付金、抗がん剤・ホルモン剤治療給付金(給付月額20万円)
- 保険期間・保険料払込期間:終身

月払保険料 **1,500円** (35歳男性) / **1,500円** (43歳女性)

追加のご加入で、ガンの通院治療の保障を充実

- 主契約:放射線治療給付金、抗がん剤・ホルモン剤治療給付金(給付月額20万円)
- 特約:ガン先進医療給付金、ガン先進医療支援給付金(一括15万円)、ガン診断給付金(一括50万円)、悪性新生物保険料払込免除
- 保険期間・保険料払込期間:終身

月払保険料 **3,216円** (40歳男性)

今、ガン保険にご加入されている方も、  
ご加入されていない方も今すぐチェック!

**0037-6001-60140**

※一部の固定電話から繋がらない場合がございます。  
※一部の固定電話から繋がらない場合がございます。  
※一部の固定電話から繋がらない場合がございます。  
※一部の固定電話から繋がらない場合がございます。

石川県立美術館だより  
第392号(毎月発行)  
2016年6月1日発行  
〒920-0963  
金沢市出羽町2番1号  
Tel:076(231)7580  
Fax:076(224)9550  
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/